



2019年9月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年5月8日

上場会社名 EPSホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4282 URL <http://www.eps-holdings.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 巖 浩
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 (氏名) 関谷 和樹 TEL 03-5684-7873
 四半期報告書提出予定日 2019年5月15日 配当支払開始予定日 2019年6月3日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第2四半期の連結業績(2018年10月1日～2019年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第2四半期	33,501	2.6	3,179	17.0	3,275	15.8	2,065	17.2
2018年9月期第2四半期	32,666	7.5	3,828	17.4	3,891	18.5	2,495	2.3

(注) 包括利益 2019年9月期第2四半期 2,592百万円 (0.2%) 2018年9月期第2四半期 2,586百万円 (27.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第2四半期	45.61	
2018年9月期第2四半期	54.08	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第2四半期	67,809	47,960	65.8
2018年9月期	65,405	46,743	66.6

(参考) 自己資本 2019年9月期第2四半期 44,605百万円 2018年9月期 43,534百万円

(注) 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年9月期に係る総資産及び自己資本比率については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっています。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期		12.00		17.00	29.00
2019年9月期		13.00			
2019年9月期(予想)				15.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2018年9月期期末配当金には、特別配当4円が含まれています。

3. 2019年9月期の連結業績予想(2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	72,000	9.5	7,200	0.1	7,350	1.2	4,700	7.1	102.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は2018年11月1日を効力発生日として、往来技術株式会社と完全子会社化を目的とした株式交換を行い、自己株式642,000株を割当交付しました。これにより、2019年9月期の連結業績予想の1株当たり当期純利益は当該株式交換を考慮した株式数で算定しています。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年9月期2Q	46,311,389 株	2018年9月期	46,311,389 株
期末自己株式数	2019年9月期2Q	1,456,991 株	2018年9月期	1,049,754 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年9月期2Q	45,281,728 株	2018年9月期2Q	46,143,103 株

(注)2019年9月期2Qの期末自己株式数には、EPS益新株式会社が所有する当社株式93,090株が含まれています。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10
(1) 連結キャッシュ・フロー関連の主要な数値	10
(2) 受注実績	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における業績全般の概況

	前第2四半期連結累計期間		当第2四半期連結累計期間		増減	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	32,666	100.0	33,501	100.0	834	2.6
営業利益	3,828	11.7	3,179	9.5	△648	△17.0
経常利益	3,891	11.9	3,275	9.8	△615	△15.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,495	7.6	2,065	6.2	△430	△17.2

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の連結売上高は、Global Research事業において新規案件獲得が伸び悩みましたが、ほかのセグメントが順調に売上高を増加させたため、33,501百万円（前年同期比 2.6%増）となりました。また、連結営業利益は、CRO事業の前年同期においては案件の好進捗により利益率が高かったことや、Global Research事業の受注の遅れもあり、当四半期連結累計期間においては3,179百万円（同 17.0%減）と減益となりました。

セグメント別の業績は次の通りです。

セグメントの状況

当社グループは主として以下の5セグメント（国内3、海外2）にて事業を展開しています。

			前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減
			百万円	百万円	百万円
国内事業	CRO	売上高	15,649	15,884	234
		営業利益	3,705	2,950	△754
	SMO	売上高	7,033	7,123	90
		営業利益	503	815	312
	CSO	売上高	3,903	4,070	166
		営業利益	177	168	△8
海外事業	Global Research	売上高	2,660	2,002	△657
		営業利益又は 営業損失(△)	120	△96	△216
	益新	売上高	5,184	5,785	600
		営業利益又は 営業損失(△)	△144	140	285

① C R O事業

C R O事業は主に以下の体制にて展開しています。

- (ア) 治験・PMS（製造販売後調査）等業務受託：イーピーエス(株)※1、(株)E P Sアソシエイト、A Cメディカル(株)※1
- (イ) 臨床研究業務：E Pクルーズ(株)
- (ウ) 派遣型C R O業務：(株)イーピーメイト※1
- (エ) 医薬・医療系I T関連業務：イートライアル(株)※2、往来技術(株)※2

C R O事業を業務別で見ると、治験業務は試験の中止や遅れ等が影響し、売上高及び営業利益ともに計画を若干下回りました。PMS業務等については、実施中の案件が順調に推移し、売上高、営業利益ともに計画を超過しました。派遣型C R O業務はリソース確保の遅れ等により、売上高は計画を下回ったものの、営業利益は原価の適正管理等により計画を上回りました。

臨床研究業務及び医薬・医療系I T関連業務は計画通りに推移しています。

C R O事業は、豊富な人的リソースとI Tを融合した事業を展開するA Cメディカル(株)を迎えることによって、同社の強みであるデータサイエンスの体制を強固にできるとともに、高品質なサービスと供給力を更に高めることが期待できます。

この結果、売上高は前年同期と比較して234百万円増の15,884百万円（1.5%増）、営業利益は前年同期において案件の好進捗により利益率が高かったことや、前第4四半期においてマイルストーンが前倒しで進捗した反動、及びのれん償却費負担増の影響により、754百万円減の2,950百万円（20.4%減）となりました。

② S M O事業

S M O事業は、(株)E P総合にて展開しています。

同事業では、プロジェクト管理体制の強化、提案型営業の全面展開等の営業体制の強化による業績の拡大と、品質管理体制の充実に取り組みました。売上高は前年同期と比較して90百万円増の7,123百万円（1.3%増）となりました。営業利益は人員の適正配置等コスト削減策により、前年同期と比較して312百万円増の815百万円（62.0%増）の増益となりました。

③ C S O事業

C S O事業は(株)E Pファーマライン、A Cメディカル(株)※1及び(株)E Sリンクにて展開しています。

医薬向けC M R（契約M R：医薬情報担当者）の環境に変化はなく、好転していないものの、(株)E Pファーマラインにおいては学術資材等作成事業、B P O事業が好調、医薬向けC M R含む他の事業においても概ね計画通りとなりました。

(株)スズケンとの合弁会社である(株)E Sリンクは、医薬品卸担当者（M S）とコールセンター及びB P Oとの融合による新たなサービスの営業強化に努めており、引き合いの成約に注力しています。

また、3月よりA Cメディカル(株)のアプシェ（C S O）事業を当事業に組み入れました。これにより同社の豊富な人的リソースを活かし、高品質なサービスを提供してまいります。

この結果、売上高は、前年同期と比較して166百万円増の4,070百万円（4.3%増）、営業利益は前年同期と比較して8百万円減の168百万円（4.7%減）となりました。

④ Global Research 事業

Global Research事業は、E P Sインターナショナル(株)とその海外グループ会社で構成されており、中国国内のC R O事業を含め、アジア・パシフィック地域を中心に事業を展開しています。

アジア・パシフィック地域でのグローバル治験は増加していますが、グローバルC R Oとの競争激化により新規案件の獲得が伸び悩んだこともあり、売上高及び営業利益とも計画を下回りました。営業の強化と品質管理の体制整備を図るとともに、原価管理等を徹底し、安定した業績を目指します。

売上高は前年同期と比較して657百万円減の2,002百万円（24.7%減）、営業損益は前期益新事業にあった中国国内のC R O事業を移したことも影響し、96百万円の営業損失（前年同期間120百万円の利益計上）となりました。

⑤ 益新事業

益新事業は、E P S 益新(株)と益新(中国)有限公司の2つの統括会社と中国のグループ会社で展開しています。

同事業は、(株)スズケンとの緊密な資本業務提携のもと、医薬品や医療機器を中心とした製品関連事業、投資関連事業、国際貿易事業及び周辺サポート関連事業の4つの事業を展開し、「日中をつなぐヘルスケア産業の専門商社」として一層の収益拡大を図っています。

製品関連事業においては、継続的な既存市場深耕と新規市場開拓が順調に推移し収益拡大に寄与しました。

その結果、業績面では、売上高は前年同期と比較して600百万円増の5,785百万円(11.6%増)、営業利益は140百万円(前年同期間144百万円の損失計上)となりました。

※1. 2019年2月28日にACメディカル(株)の発行済み全株式を取得し、それぞれの事業をCROセグメント及びCSOセグメントに組み入れています。また、2019年4月1日にイーピーエス(株)は(株)イーピーメイトを吸収合併しました。

※2. 2019年4月1日にイートライアル(株)は往来技術(株)を吸収合併し、EPテクノ(株)に社名変更しました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年11月7日に平成30年9月期決算短信にて公表しました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,857	17,916
受取手形及び売掛金	15,746	16,608
有価証券	1,357	1,231
商品及び製品	849	905
仕掛品	1,473	1,637
その他	3,094	3,096
貸倒引当金	△51	△50
流動資産合計	40,326	41,345
固定資産		
有形固定資産	4,892	5,222
無形固定資産		
のれん	6,629	7,380
その他	773	918
無形固定資産合計	7,402	8,298
投資その他の資産		
投資有価証券	5,999	5,773
敷金及び保証金	1,867	2,012
その他	5,815	6,054
貸倒引当金	△898	△898
投資その他の資産合計	12,784	12,942
固定資産合計	25,078	26,463
資産合計	65,405	67,809
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	456	834
短期借入金	65	565
1年内返済予定の長期借入金	602	645
未払法人税等	1,251	1,351
賞与引当金	2,732	2,941
受注損失引当金	242	216
その他	9,237	9,270
流動負債合計	14,587	15,825
固定負債		
長期借入金	918	684
役員退職慰労引当金	453	378
退職給付に係る負債	1,428	1,407
資産除去債務	556	619
その他	716	932
固定負債合計	4,073	4,022
負債合計	18,661	19,848

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,888	3,888
資本剰余金	13,601	13,690
利益剰余金	26,347	27,643
自己株式	△2,167	△2,803
株主資本合計	41,670	42,418
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,012	1,374
為替換算調整勘定	861	817
退職給付に係る調整累計額	△9	△5
その他の包括利益累計額合計	1,864	2,186
非支配株主持分	3,209	3,355
純資産合計	46,743	47,960
負債純資産合計	65,405	67,809

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
売上高	32,666	33,501
売上原価	21,107	21,542
売上総利益	11,558	11,958
販売費及び一般管理費	7,729	8,778
営業利益	3,828	3,179
営業外収益		
受取利息	19	51
受取配当金	23	23
保険解約益	31	63
その他	85	20
営業外収益合計	159	158
営業外費用		
支払利息	9	7
為替差損	81	39
その他	6	14
営業外費用合計	97	62
経常利益	3,891	3,275
特別利益		
投資有価証券売却益	-	263
段階取得に係る差益	-	198
特別利益合計	-	461
税金等調整前四半期純利益	3,891	3,737
法人税、住民税及び事業税	1,408	1,357
法人税等調整額	△17	102
法人税等合計	1,390	1,460
四半期純利益	2,500	2,277
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	211
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,495	2,065

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
四半期純利益	2,500	2,277
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	243	362
為替換算調整勘定	△94	△51
退職給付に係る調整額	△62	4
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	0
その他の包括利益合計	86	314
四半期包括利益	2,586	2,592
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,582	2,387
非支配株主に係る四半期包括利益	4	204

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は2018年11月1日を効力発生日として、当社を株式交換完全親会社、往来技術株式会社を株式交換完全子会社とする株式交換を実施し、自己株式642,000株を割当交付しました。

また、当社は2018年3月27日開催の取締役会及び、2019年2月1日開催の取締役会決議に基づき、自己株式956,100株の取得を行いました。

これらにより、当第2四半期連結累計期間において、自己株式が636百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末の自己株式は2,803百万円となっています。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自2017年10月1日至2018年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額(注)	四半期連結損益計算書計上額
	CRO事業	SMO事業	CSO事業	Global Research 事業	益新事業	その他	計		
売上高									
外部顧客への売上高	13,978	6,989	3,850	2,660	5,063	123	32,666	—	32,666
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,671	43	53	—	120	704	2,593	(2,593)	—
計	15,649	7,033	3,903	2,660	5,184	828	35,260	(2,593)	32,666
セグメント利益	3,705	503	177	120	(144)	60	4,421	(593)	3,828

(注) セグメント利益の調整額(593)百万円には、セグメント間取引消去等の23百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用(616)百万円が含まれています。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用です。

II 当第2四半期連結累計期間(自2018年10月1日至2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額(注)	四半期連結損益計算書計上額
	CRO事業	SMO事業	CSO事業	Global Research 事業	益新事業	その他	計		
売上高									
外部顧客への売上高	14,528	7,092	4,022	1,970	5,765	122	33,501	—	33,501
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,356	31	47	32	19	865	2,352	(2,352)	—
計	15,884	7,123	4,070	2,002	5,785	987	35,853	(2,352)	33,501
セグメント利益	2,950	815	168	(96)	140	38	4,018	(838)	3,179

(注) セグメント利益の調整額(838)百万円には、セグメント間取引消去等の10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用(849)百万円が含まれています。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用です。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

第1四半期連結会計期間に、当社を株式交換完全親会社、往来技術株式会社を株式交換完全子会社とする株式交換を実施したことにより、「CRO事業」セグメントにおいて、のれんの金額が1,164百万円増加しています。

3. 補足情報

(1) 連結キャッシュ・フロー関連の主要な数値

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,424	3,190
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,905	△377
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,075	△2,903
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	11	△2
V. 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,544	△92
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	23,097	18,753
VII. 株式交換による現金同等物の増加額	—	323
VIII. 現金及び現金同等物の四半期末残高	21,553	18,984
減価償却費	403	403
のれんの償却額	576	621

(2) 受注実績

区分	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)			
	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
CRO事業	16,002	123.7	43,890	112.1
SMO事業	8,327	108.2	20,653	110.6
CSO事業	3,974	106.9	9,581	115.9
Global Research 事業	2,895	149.2	8,960	113.2
益新事業	5,785	121.8	74	28.6
その他	120	100.0	6	73.0
合計	37,106	119.0	83,166	112.0

- (注) 1. 金額は販売価格で記載しています。
2. 上記金額には消費税等は含まれていません。